

COFFEE BREAK

■朝の手順

西部ブロック／緑色のバイク

朝、眠りから目覚め、起きて水を飲むことで眠っていた体は、スッキリ目覚めます。また音楽も、朝を快適にスタートする大切な要素です。テンポの良い喫茶店で流れているような音楽なら、快適で気持ちの良い朝を迎えられると思います。

テレビで、イチロー選手のドキュメンタリーを見ました。ストレッチの仕方、ランニングの時間、ウォーミングアップの内容。すべて同じやり方、手順で通していました。これは、朝食にまで及び、毎日、同じカレーを食べる徹底ぶりでした。

逆に、毎朝、違った手順で準備を始め、その日の気分が朝食を食べたり食べなかったり、持ち物を用意しているうちに家を出る時間になり、慌てて出かける。こうなると、気持ちの余裕もなくなります。毎朝、体調と心の状態をコントロールしないで、家を出ることになります。

イチロー選手が手順を決めているように仕事前のウォーミングアップである朝の支度は手順を決めて、

毎日同じように迎えると、体調も心も落ち着くし、慣れてくれば、朝の手順を踏むスピードも上がり、朝の余裕も生まれます。朝の行動パターンを決めると、夜のうちに準備できることも見えてきます。決まっていないと、何が起こるか予想がつかず、どうしても行き当たりばったりになります。

朝の手順でおすすめが、朝食のパターンを決めることです。たとえば、「シャトルシェフ」です。加熱調理時の熱を保温してくれる鍋で余熱調理できます。夜のうちにタマネギや野菜とベーコンなど入れ余熱調理しておく朝おいしいオニオンスープが出来上がってます。こんなふうに朝食をしっかり食べると、自然と「おいしい！」と楽しいコミュニケーションが生まれます。朝、こうした明るい言葉からスタートするのは本当に気分のいいものです。ちょっとくらい前日の疲れが残っていても、吹き飛んでしまいます。

こんな毎日を過ごしたいものです(笑)。

■「オールドカーin K'zROAD」 西部ブロック／タカチャップ

先日、春野町で「オールドカーin K'zROAD」と言う旧車のイベントに参加して来ました。このイベントは、元々フェアレディZの集まりでした。このフェアレディZの生みの親が春野町出身の片山豊氏。当年、103歳です。

片山氏の年齢にかけて103台のエントリーがありました。全国から集合した旧車達。

「K'zROAD」とはKは片山氏のKです。アメリカで日産の社長をやっていた頃片山氏はMr.Kと呼ばれていたそうです。そのイニシャルKとフェアレディZの文字を掛け合わせて「K'z」と呼ぶようになりました。「K'zROAD」は春野町の幹線道路に名前を付けてドライブコースとしています。

今回で3回目のイベント。普段は乗らない愛車をこの日の為に磨きをかけてきた車。今回に限らず、旧車のイベントでは情報交換の場でもあります。女性の井戸端会議とほとんど変わらないのが実情ですね。

「オールドカーin K'zROAD」はドライブコースになっています。エントリーした全車がこのコースをパレードする事になっています。私もいろんなイベントに参加しますがパレードで締めくくるイベントはおそらく無かったでしょう。そしてこの町ぐるみでのイベントと言う事もあって、小さな子供からお爺ちゃんお婆ちゃんまでもが沿道に並んで手を振って送ってくれます。参加して楽しく、町の人との交流もあり素敵な一日でした。来年もまた来ますね。

無礼句

■がんばれー

東部ブロック／娘の影のファン

私の娘は中学時代野球部に所属していた。

小学校3年生の時、兄の影響も多少あったが私が半ば強制的に学童野球に入れたのだ。

女の子と言う事について行けるか心配したが、本来負けず嫌いで強気な性格の為、やめたいとは一度も言わず無事卒団したのだ。

中学に入学し、部活を決める時期になると

娘が突然

「お父さん、私、野球部に入るから！！」

と堂々宣言……。私と妻はア然とし、勿論猛反対。

それから

一週間毎日夫婦で説得したが、聞く耳持たず……。

結局私達が

折れて、野球部にお世話になる事にした。

顧問も厳しいがいい先生で、女だからと特別扱い

せず、全てみんなと同じメニューで扱って頂いた。

毎週土日、朝から晩まで遠征やホームでの試合（年間約100試合）

それが終わると近くの急坂で坂道ダッシュ50本。その後グラウンド整備で端から端までタイヤ引き。同級生の女の子は休日、友達とお洒落をしプリクラなど撮りに行っているのに私の娘は、野郎と一緒に朝から晩まで真っ黒になって頑張っている。なんとも不憫だったが、本人は泣き言一つ言わなかった。

今は高校で硬式テニスをしているが、すでに学校の1番手シングルスプレイヤーになっている。そして中学の厳しい練習が今、とても役に立っていると娘は言う。我が子ながら、あの根性、やる気にあっばれだ。これからは女の子として高校生活をエンジョイしてもらいたいものだ。

■ソフトランディングの会

中部ブロック／怠慢建築士

団塊の世代が65歳に突入した現在、後継者が居ない企業が増えているそうで、たとえ業績も良く黒字の企業であっても、必ずしも経営を受け継ぎたい人が居るとは限らないそうです。

ましてや借金を抱えた企業などは、後を継ごうという人間はそういないのでしょうか。

団塊の世代の人達の中には起業した人も多く、それらの企業の中にもやはり後継者の居ないものが多いそうです。

これらの企業は廃業するか、M&Aなどにより売却するケースも増えているようです。

先日、私の所に遊びに来たある木工業の社長さんが、私の会社も後継者が居ないが、お客様や機械等の設備、それに技術的なノウハウ、人材等、廃業するには惜しく、何か良いアイデアはないものかとおっしゃっていました。

私たちの世代の人間が聞けば、こんなにおいしい話はそう滅多に無いのではないかと思います。ですが、どうも今の若者は、独立志向があまり無く、安定志向が強いようです。

これというのも、丁度親の世代がリストラ等で苦しんできた時代の子達で、夢を描いて頑張ることよりも、何とか安定した企業に就職して退職金をもら

うまで無難に働いてほしいという親の願望のもとで育ってきたという点もあるのではないのでしょうか。

私の様な零細の設計事務所は、もともと企業として確立させて誰かに後を継がせようという発想はあまり持っていませんでした。

ただ自分が好きな事をやって、自分の人生を楽しめばいいやという事だったのかもしれない。

考えてみれば随分身勝手な姿勢ですが……。

私の周りの設計や施工をやってきた仲間達も、似たような考えの人が多く、これからはこれのできるようにならないと仕事は来なくなりますよと言われても、次々とご案内いただく講習会等に、お金と時間を使う気になれず、ぼちぼちと自分の出来ることを楽しみながらやって、徐々に着陸していければという発想の人達で、元建築士会〇〇支部ソフトランディングの会とか言いながら、相変わらずお酒を酌み交わしています。

追伸、

若い建築士のみなさん！これからはあなた達の時代です。自分達が主人公になって、既成概念にとらわれない建築士会を作ってください！